

武生特殊鋼材株式会社

http://www.e-tokko.com/

所在地：越前市四郎丸町21-2-1

電話：0778-24-3666

代表者：河野 通亜 氏

資本金：5,000万円

従業員数：45人

事業内容：クラッドメタル(異種金属接合材)の製造・販売等

武生特殊鋼材株式会社



文部科学大臣表彰受賞の 技術力を次世代へ継承

越前打刃物の里として知られる越前市。武生特殊鋼材株式会社はクラッドメタル（異種金属接合材）の製法特許を基に、1954年にこの地に創業。刃物用鋼材メーカーとして金属複合材料を手がけ、独創的な製品を開発してきました。その優れた技術力は、「平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」において、科学技術賞（技術部門）と創意工夫功労者賞を受賞。受賞に至ったベテラン技術者の取り組みや技術継承への思いと、培ってきたものづくりの技と心を受け継ぐ若手社員の意気込みを伺いました。

失敗を繰り返しながら
歳月を経て花開く技術

文部科学大臣表彰の科学技術賞に選ばれた、山本氏と神門氏。強靱性と錆びにくさ、耐摩耗性に優れた刃物素材を生み出す「均一組織のステンレス刃物鋼の開発」が高く評価されての受賞となりました。

「硬さと粘りという二律背反する要素を兼ね備えた材料はできないか、というのが出発点。従来の溶解法ではなく、一旦溶かしたものを粉末化することで均一組織のステンレス刃物鋼を実現しました」

営業の神門氏と二人三脚で技術を錬磨してきた山本氏は、開発の道のりをそう振り返ります。

「この技術研究は約30年かかって目の目を見たもの。当社にはそうした技術が常に何

種類があり、時間をかけて花開いていく感じです。千回やって、成功するのは三回程度。開発は常に失敗の繰り返しなんですよ」

そう語る神門氏は、今年で80歳。現在は監査役として若手の活躍を見守っています。

一方、田中氏は、文部科学大臣表彰で創意工夫功労賞を受賞。従来は1枚ずつ切断していた鋼材を15枚重ねて一度に切断し、乾燥、積み込みまで行う自動装置の考案が評価されました。

「この装置で、コストや時間、労力を大幅に削減することができました。ものづくりにあたっては、常に+αの工夫を考えながら作業するようにしています」

ドクター制度を創設し
ベテランの経験を伝授

当社は、10数年前に高齢

者雇用制度の一環として独自のドクター制度を設置し、定年を迎えたベテラン社員が、若手や途中入社社員の技術レベルを高めつつ、メンタル面でのサポートも行っています。長年にわたり様々なオリジナル設備の開発に携わってきた田中氏は定年後、熟練技能を評価されてドクターに就任し、後輩の指導にあたっています。

高いレベルを維持する開発力の秘訣は、そうした教育面での積極的な取り組みと、同社のキーワードである『限り無くオリジナリティ、限り無く本物志向』にあると河野社長は語ります。

「創業以来、変わらず鋼材の技術開発に専念し、社員がそれに没頭できたからこそ今があると思っています。また、顧客である鍛冶屋にダイレクトに接しているから、市場のニーズを的確にキャッチし、製品づくりに反映することができたという利点もありますね」

現在、同社は刃物用クラッドメタルで国内シェア60%を確保。アジアを中心に海外販売も好調で、売上高の25%を

『温故知新』を大切に
若い世代が技術を継承

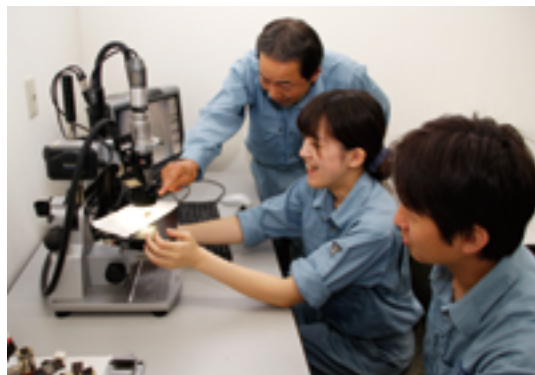
海外向けが占めるまでになっています。グローバル化が進む中で、若手社員はベテラン社員の活躍と後継者育成への取り組みをどのように受け止めているのでしょうか。

国内外の営業全般を管轄する河野専務は、現在35歳。技術継承について、このような持論を語ってくれました。

「技術というのは、継承しにくいもの。先輩方から知識や経験に潜むコツのようなものを伝えていただき、自分なりの感性で噛み砕いていくのが大事だと思います」

そんな河野専務のブレンとして、設備保全や知的財産権の管理などを担当する大久保氏にも話を伺いました。大久保氏は31歳。部署にはジュニアドクターの田中氏が所属し、チーム全体で業務の向上を図っています。

「長年のキャリアを誇る先輩方から様々な話を聞くことで、間接的な経験を増やし、自分も成長していきたいです。工程検査に加え、3年前か



山本氏や田中氏から、素材や溶接作業、工作機械について指導を受けています。



文部科学大臣表彰受賞者
科学技術賞：監査役 神門桐郎氏(左)
取締役副社長 山本工氏(中央)
創意工夫功労者賞：田中道行氏(右)



代表取締役社長 河野通亜氏



企画設計部次長 大久保博之氏(左)
取締役専務 河野通郎氏(中央)
技術部技術課課長 坪川 翼氏(右)